

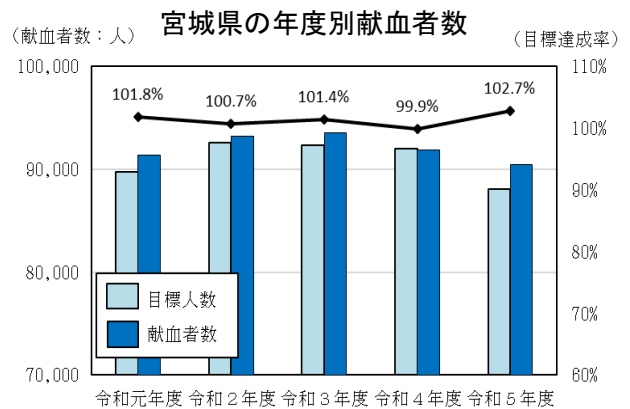
県による献血普及推進の取組について

1 宮城県の献血の概況と課題について

(1) 献血者数

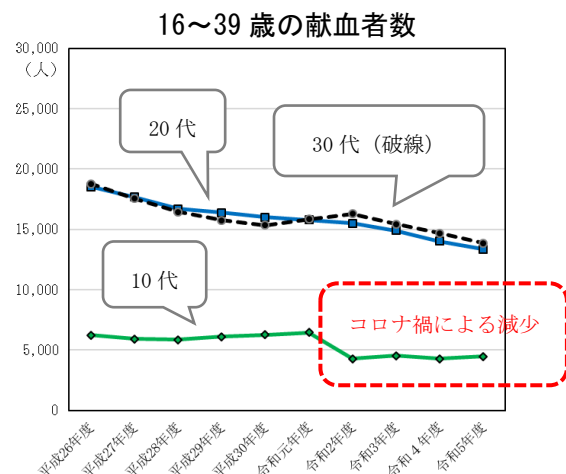
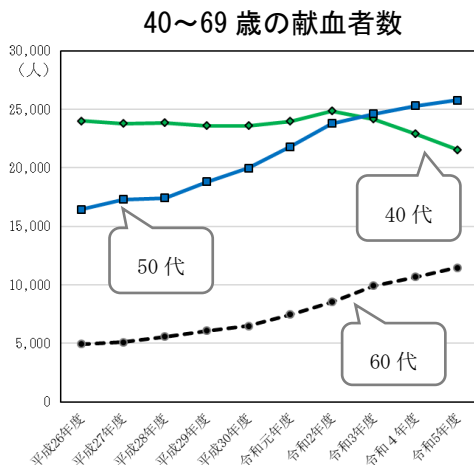
宮城県の献血者数は毎年度 9 万人前後で推移しており、各年度の計画で定めた目標人数を概ね確保し、医療機関に対して安定して血液製剤を供給することができている。

令和 5 年度は必要献血者数（献血目標）88,073 人に対し、献血者数は 90,457 人であった。目標を超える人数の皆様に協力いただき、目標達成率は 102.7% となった。

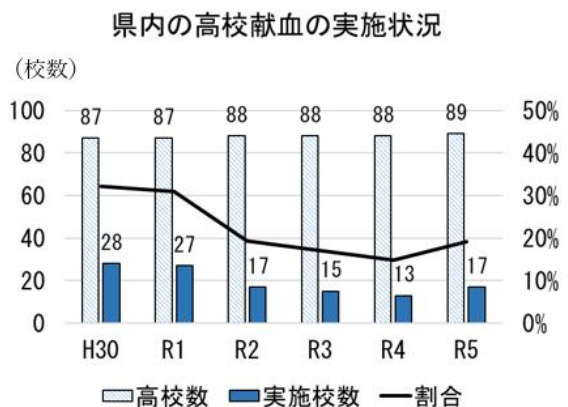


(2) 年代別献血者数の推移

- 年代別に献血者数の推移を見ると、50代と60代において増加している。
- 16～39歳の若年層においてはいずれの年代も減少傾向にある。



- 特に10代においては令和2年度以降に急激に減少しており、コロナ禍において学校献血が縮小したことなどが要因と考えられる。



(3) 課題

少子高齢化により献血可能年齢の人口が減少していくのに加え、特に10代から30代の若年層の献血者数が減少しており、将来的に渡って安定的に医療機関へ血液製剤を供給するためには、若年層に対する献血普及推進の取組が急務となっている。

2 若年層に向けた献血普及推進の取組強化について

(1) これまでの取組

若年層に向けては、「はたちの献血」キャンペーンなどの全国展開事業のほか、市町村や宮城県赤十字血液センター（以下「血液センター」という。）と連携し、学校や職場単位での献血協力や献血セミナーの実施依頼を目的に学校や企業を訪問するなどの取組を実施してきた。

さらに宮城県独自の取組として、ベガルタ仙台とコラボした献血推進キャンペーンを実施し、若年層に向けた積極的な広報を行っている。

(2) 県教育委員会と協力した新たな取組

令和6年度は県教育委員会の協力の下、10月に開催された県立高校校長会において血液センター所長による献血講話を行ったほか、11月には県教育委員会から県立高校に対して①献血バスによる高校献血、②献血バスの見学、③献血セミナーのいずれかの実施を依頼する文書を発出し、12月から血液センターが各高校の希望に応じて順次実施している。



【令和6年12月24日宮城野高校での実施の様子】 プライバシー保護のため写真を加工しています。

3 第61回献血運動推進全国大会の開催について

(1) 献血運動推進全国大会について

本大会は広く国民に献血への理解と協力を求め、献血運動を一層推進することを目的に、厚生労働省、日本赤十字社及び開催地の都道府県が主催者となり、毎年7月の「愛の血液助け合い運動」期間中に開催されている。



第60回献血運動推進全国大会の様子（提供：岐阜県）

（令和6年7月18日岐阜県にて開催）

(2) 宮城大会について

主 催：厚生労働省、日本赤十字社、宮城県

時期及び場所：令和7年7月 仙台市内

参 加 予 定 者：献血功労者及び団体、都道府県、市町村及び日本赤十字社の関係者等

1,500人程度

大 会 内 容：式典（献血功労者及び団体の表彰、献血の体験発表等）

大 会 運 営：知事が会長となり、4師会、厚生労働省、日本赤十字社等の関係者で構成される実行委員会において企画し、運営する。